

シンポジウム記録 震災被災地の水産業と漁村の復興

水産教育推進委員会からの報告

良永知義^{1,2}

¹日本水産学会水産教育推進委員会,

²東京大学大学院農学生命科学研究科

Report from Fisheries Education Committee

TOMOYOSHI YOSHINAGA^{1,2}

¹Fisheries Education Committee, ²Graduate School of Agricultural and Life Science, The University of Tokyo, Bunkyo, Tokyo 113-8657, Japan

被災した水産系教育機関の教育支援を目的に、以下の3つのアクションを起こした。①水産系高校の教育活動の支援の準備があることを記した文書を各県教育委員会に送付した。②被災した大学の学部学生・院生の受け入れ要請があった場合の準備を各大学で進めるよう水産教育推進委員に要請した。③日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けている教育プログラムを有する教育機関の中に被災した教育機関があったため、(財)農学会を通じて、JABEEに対して被災した教育機関のプログラム認定・維持のために特段の配慮をお願いした。以下、これらの活動の内容とその結果を簡単に記す。

①支援する内容としては、当初は出張講義、教育用標本、機材や専門書を想定していた。しかし、岩手県立宮古水産高校から教習艇など流出した小型船舶の入手・借用ならびに実習用顕微鏡入手のための便宜供与依頼があり、これらについては水産学会単独での支援は困難であった。そこで、各大学・機関からの支援を期待して、依頼の内容を水産教育推進委員ならびに拡大政策委員に連絡した。いくつかの大学から貸与が可能との連絡をいただいたが、東京大学八木信行准教授のお世話により、結果的に、船舶については、宮古水産高校が被災した水産系高校全体の窓口となって要望をとりまとめ、日本財団

から提供いただくこととなった。8月中旬より、青森県立八戸水産高校(貸与で対応)、岩手県立久慈東高校、岩手県立宮古水産高校、岩手県立高田高校、宮城県立気仙沼向洋高校、宮城県立宮城県水産高校への配備が始まった。実習用顕微鏡については、長崎大学萩原篤志教授のご尽力により、6月に長崎大学から宮古水産高校に対し更新後の生物顕微鏡15台が供与され、関連して岩手県の漁業者がホタテガイ種苗採苗に用いるために4台が同じく長崎大学から提供された。また、(株)ニコインステック社から宮古水産高校に対して中古ディスカッション顕微鏡が提供された。

②今回の震災に対応して、多くの大学は被災した大学からの学生の受け入れの体制を独自に進めていたようである。卒業研究生ならびに院生の研究のため受け入れが多いが、中には単位認定を伴う受け入れ体制を整備した大学も見受けられる。水産教育推進委員会がおこなった要請と同様の要請は全国大学水産実験所長会議からも発信された。受け入れの状況については、現在調査中であるが、これまでに4大学以上での受け入れが確認されている。

③JABEE認定を受けている北里大学海洋生命科学部は、震災の被害のため、その教育課程を相模キャンパスに一時的に移して行うことになった。そのため、海洋生命科学部ではJABEEプログラムの維持のため変更届の提出や変更時審査の受審を行う必要が生じる可能性が発生した。しかし、被災のため、これらの手続きを迅速に行うことは極めて困難な状況にあると考えられた。そこで、(財)農学会を通じ、JABEE審査調整委員会ならびにJABEE理事会に対して要請を行い、その結果、JABEEは被災したプログラムの審査にあたっては個々のプログラムの事情を考慮して最大限弾力的に実施することを決定した。